

老健たより

第7号



行事紹介	1. 盆おどり大会	2
	2. 敬老会他	3
ボランティアさんよりひとこと		4
訪問看護部より		5
介護シリーズ	—食事の介助と事故防止—	5
第6回老人保健施設大会		6
編集後記		6

◇行事紹介◇

夏の夜に踊りの輪が広がる(8月)

●夜店、仮装でにぎわう盆踊り大会

介護職員

米田民子

八月十八日、早朝より降り続いた雨も上がり、谷施設長のあいさつで盆踊り大会が始まりました。

たくさんのかたたちが盛りだくさんあり、今年は仮装行列など盛りだくさんあり、その中で「ああビルがおいしい」と満



皆さん、大いに歌って踊つて下さい。



盆踊りで踊るなんて、何年ぶりかしら



さて、私は誰でしょう



足な顔、又入所者の皿を突ついて食べている姿、その陰で汗びっしょりと頑張つておられたボランティアの方々が印象的でした。踊りも身体で音頭をとつたり輪の中にはいつたり、楽しそうでした。私達も肌で直接入所者の方が感じていただけだけで満足です。

最後になりましたが無事終わることができました事、大勢のボランティアの方々、家族のお力です。

そして一層、地域との交流が深まりますよう……。

炭坑節や八鹿音頭でにぎやかに円になって踊り職員さんが中に入ろうと云つて車を押して下さって音楽にのつて踊つたのです。

仮装行列で先生がた達が変装してとても上手にできていて、オバQ、貴乃花夫妻や大学生の变身ぶりとても楽しく職員さん達大変だったでしょうね。

暑い夜だったがお好みやポップコーンを食べながら楽しく見せて頂き有難たく、不自由な体になつても皆様のおかげで喜んでいます。



がはずむ思いで部屋に帰り楽しさ一杯でよく眠れました。

有難う御座りました。

村上岩太郎

老健関係の役員の皆さん、そして職員の皆さん方、今回入所の私達の為にこのような盛況へ出たら屋台が並んでいて、かき氷やお好み焼、フランクフルト、ポップコーンの店がならんでボランティアの人達が多勢いらつして盆踊りをもりあげて下さっていました。

過去の人生の盆踊りを振り返り乍ら感動させられました。そして又日頃は職員の皆さんが一から十まで手厚い介護をして頂く事を感謝して居ります。私達は老健で楽しい入所生活を過させて頂いて居ります。

本当にありがとうございました。又出来れば是非来年の盆踊り大会に参加したく思つて居ります。

NEWS FROM ROKEN 2

入所者からひとこと

松田恵美子

盆踊り

八月十八日夜盆踊りを広場で行うと放送され夜を楽しみで待ち遠しく私は車椅子ですので職員さんに押して頂いて廣場へ出たら屋台が並んでいて、かき氷やお好み焼、フランクフルト、ポップコーンの店がならんでボランティアの人達が多勢いらつして盆踊りをもりあげて下さっていました。

炭坑節や八鹿音頭でにぎやかに円になって踊り職員さんが中に入ろうと云つて車を押して下さって音楽にのつて踊つたのです。

仮装行列で先生がた達が変装してとても上手にできてい

て、オバQ、貴乃花夫妻や大

学生の变身ぶりとても楽しく

職員さん達大変だったでしょ

うね。

暑い夜だったがお好みやポッ

プコーンを食べながら楽しく

見せて頂き有難たく、不自由

な体になつても皆様のおかげ

で喜んでいます。

今夜はとてもにぎやかで心



今年の敬老会は舞台作りから始まりススキをメインにした造り声かけにて多く集まり、テーブルには（入所者手作り）のおだんごも供え、天井からはトンボ（入所者作品）が下がり雰囲気は最高。テーマは、人生は60才から。食事はバイキング料理（すし、赤飯、フライ、果物等）テーブルの上は一流ホテルなみ。お酒、ビール、ジュースもあり皆大満足。

二、三人はほろ酔い気分の人もありカラオケ、落語、おどりの余興もありひとときを楽しく過ごした。長寿番付表を見てどの辺に自分がいるのか

一生懸命見ている人やいました。今年の最高齢者は96才でした。
最後になりましたが、ボラン

ティアの方レク担当の方御協力ありがとうございました。
レク当番より。



私は、老健にお世話になる毛戸宗一

トで十四日居ました。今回は二十日になりますが敬老の日を迎えるのは初めてです。その豪華さには驚きました。職員の方々の準備や後片付けは大変だったと思ひます。当日の料理は、自分の好きな品と量が自由に選べるのには驚きました。又アトラクションとして踊りや落語が華を添えました。職員の方が今の気持はの間に皆、「最高です」と答えました。来年の敬老の日は何處で迎えるやら少し心細く思ひます。今回は本当に有難うございました。

この頃の私達は本当に幸せだと思います。「敬老」と言われて大切にしてもらっています。昔の人の事を思えば、幸せです。自分の体に合わせて動けば良いと言われて、自分の思った時にハッピリをして自分で励む。本当に心ゆく日々です。この頃の晴れた良い気候のよう、さわやかな時が流れます。

川口喜子

のが回目です。一回目はショートで十四日居ました。今回は二十日になりますが敬老の日を迎えるのは初めてです。その豪華さには驚きました。職員の方々の準備や後片付けは大変だったと思ひます。当日の料理は、自分の好きな品と量が自由に選べるのには驚きました。又アトラクションとして踊りや落語が華を添えました。職員の方が今の気持はの間に皆、「最高です」と答えました。来年の敬老の日は何處で迎えるやら少し心細く思ひます。今回は本当に有難うございました。

その他の行事

七夕まつり（7月）

七夕を皆で大合唱



お茶会（6月）

おいしいお茶をいただきました。



こいのぼり昼食会（5月）

おいしいお好み焼ができました。



竹野南小慰問

去る七月八日(土)に、竹野南小学校五年生の親子の集いで、施設訪問をしていただきました。楽器演奏でオープニングをし、楽しいひとときを過ごしていただきました。

松岡 久靖

老人保健施設へ行って老人とあく手をした。百才の人ともあく手した。ぼくといっしょの地区のおじいさんも一人入っておられた。でもぼくのことを見つかりわすれとなつた。元気そだつた。

レクリエーションでたま入れをしたら、はじめは三点で二回目は十一点だった。だけど一番じゃなかつた。それで初ちゃんの家のお父さんと、たかし君の家のお母さんが一番だったので最後の決勝せんをしてたかし君の家のお母さんが勝ちました。ぼくのとなりのおじいさんが二番でした。

おとしよりなのにすごいと思いました。おとしよりも楽しんでおられました。

ぼくは、学校でも玉入れやふうせんバレーや魚つりをし

たいです。施設は大きくてベんりな所だと思いました。おじいさんやおばあさんがさみしくないよういろいろふうがあると思いました。

大田 初音

老人保健施設に行つて、よかつたことはみなさん喜ばれました。みなさんに喜ばれると、「来てよかったです。」

と思いました。遊びながら、リハビリをするのは良いことだと思います。遊んでいて楽しいのが一番だと思います。

笛や歌はどうでしたか。少し、しっぱいをしましたけれどもみなさんが喜んでくれたり、楽しんでくれるのがうれしいです。

家の人たちと会える日が少ないと思いますけれど、何ごとにも、みなさんといっしょに力を合わせてがんばって下さい。

体の動かない人にリハビリは、つらいことだと思います。少しでも体が動くように毎日がんばって、リハビリをしてほしいと思います。

それから、毎日おとしよりのかんごをしておられる人達

は、大変なことだと思うけどがんばって下さい。



老健の盆踊りに 参加して

余根田 正幸

八月十八日、老人保健施設

で盆踊り大会が開かれました。この催しも今年で三年目を

おしていると、「うれしかった。」となきなつたら、よっぽどさみしかつたんだなと思つた。帰るときあくしゅをしたらよろこんでくれてうれしかつた。

百才のおばあさんとあくしゅをしてうれしかつた。ふうせんであそんだあと、車いすでおしてみると、「うれしかつた。」となきなつたら、よっぽどさみしかつたんだなと思つた。帰るときあくしゅをした

らよろこんでくれてうれしかつた。

いろいろな話をしてもらつた。

これからも長いきしてほし

いです。いろんなおばあさんやおじいさんにあえてよかつた。

うちのおじいちゃんやおばあちゃんを大事にしてあげようと思います。これからもいろんなことをがんばってほし

いと思います。

音頭やおはやしに、心も体もはやしたてられ、このひとときを満喫されたようでした。八鹿町も年々高齢化率が高まり、現在三三・七%、援護策が展開されていますが、老人保健施設のように、「治療とともに、生活を重視する」、地域ボランティアの皆さんのお手伝い、また、夜には多くの近隣住民の参加があり、毎年に盛り上ってきたなど強く感じました。

施設のお年寄りも車イスに乗っての参加、矢倉を取り囲んだ入所の皆さんには、日頃施設内では見うけられない楽しそうな表情が見られました。昔から「踊る何んとかに、見る何んとか、同じ何んとかならば、踊らなそんそん」と言うように、参加したスタッフ全員も矢倉の上から流れる



ごくろうさまでした

**「二人暮らしのSさん
宅を訪問して」
—秋風にふかれながら—**

南但訪問看護センター

田畠 和和子

田畠のあぜ道に赤いじゅうたんをひいたような、ひがん花が目に映りはじめるようになりました。今日の二軒目の訪問はY町のSさんのお宅です。今年の三月に退院し広い家に78才の奥さんと二人で仲よく暮らしています。81才のSさんは脳梗塞、足の骨折、肺炎をくり返すうちに寝たきりとなり今は胃瘻チューブ、膀胱留置カテーテルが挿入され、痰がからんでも出せない、しゃべりたくても声にならず、自分の力で寝返りすらできなくなってしまいました。三人の子供たちはそれぞれ県外に奥さんの「どうしても住み慣れた我が家で主人と一緒に暮したい。」という強い希望があり、チューブ類の取り扱い、吸引の仕方、他介護の方法など一生懸命習って帰られました。

「こんには訪問看護です。」

玄関でいつもの様に挨拶をしました。いつもなら私達を笑顔で迎えて下さる奥さんの姿が見えません。今日は様子が違うと思っていたら、奥の方から「花を取ろうとしたら急に冷汗が出てきて今、庭で吐いとったんや」と奥さんが青い顔をして部屋に入ってきたました。すぐにSさんの隣のベッドに横になつてもらい病状の観察を行いました。次第に嘔吐が頻繁になり洗面器をかえ込んだまま身動きできなくなつてしましました。血圧が高いと聞いていただけにただならぬ気配を感じすぐに夫婦の主治医であるM医院へ連絡をし、奥さんの病状を説明すると「すぐにこちらから迎えに行きます。」と言つて下さいました。数分後には顔馴染のM医院の運転手さんが玄関先に立つておられました。奥さんに、M医院から迎えの車が来ていること、Sさんのことは心配ないことを伝え受診の準備をすすめてもらいました。「医者に行くなら服を着替えない」と整頓されたタシスの中から下着を取り出し着替え始められ、こんな時と思いましたが、この気丈夫

さこそSさんを支えている精神力であると強く感じました。Sさんのケアの途中、M医院から奥さんの病状を知らせる電話がありました。「急性胃腸炎でしばらく点滴を受けた方がよいでしょう。一時間位で帰ります。」ホッと胸をなでおろしたのは言うまでもありません。Sさんにも奥さんの具合は心配のないことを話して、昼の流動食の注入を終り異常のないことを確認しましたが、後髪をひかれる思いでS家をあとにしました。庭先にはきんもくせいの花の香りが立ち込めていました。訪問看護センター帰院後、Y町のホームヘルパーさんへ奥さんの病状を説明し午後のヘルパー訪問時、気を付けていただけのようにお願いしました。日々地域の開業医、ホームヘルパーさん、民生委員の方々に支えてもらいながら夫婦が安心して暮していくことを実感しました。Sさん夫婦のように高令で寝たきりになつても「我家」で暮したいという気持ちを大事にして、お年寄りのベースに合わせてゆっくり食べる配慮があつてほしいものです。

食事の介助と事故防止

介護シリーズ

※上体を起こす
食事は起きて自分で食べるこれが大原則です。

※上体を起こす
食べものが自然に胃のほうへ落ちていくように、上体を起こし、少し前かがみぎみの姿勢で食べます。寝床で食べなければならぬ状態の時も、上体はなるべく起こして食べます。

※家族と一緒に食べる
食事はひとりで食べるより大勢で食べたほうがおいしく、会話を楽しみ、座つていらる場合は寝床を離れて食卓につくと、それだけでリハビリにもなります。

※自分の手で食べる

食事の動作にはこまかい動きが必要でマヒがあるお年寄りにとってはなかなかじょうずにできないこともあります。

しかし、食べるものを自分で選び、自分で口に運ぶことは生活を自立させるために非常に大切です。箸が使えないけれど、スプーンやフォークを使ったり、手の不自由な人のために作られた自助具などを使うのもよい方法です。食べこぼしが気にならないようにエプロンなどをするのもよいでしょう。お年寄りのベースに合わせてゆっくり食べる配慮があつてほしいものです。



第6回全国老人保健施設大会

第六回大会は、地域における保健・医療・福祉の連携をめざして、マニフェストナーに於て開催され、当施設も、毎日の仕事を通して経験した結果を発表し参加しました。

入所時から問題行動の絶えなかつた痴呆性老人に対して援助をおこなつた結果、三ヶ月の入所の中で周辺症状の著しい改善がみられ、在宅可能なようになった事例を通して、小橋誠支援を拒む孤立した老夫婦の入所を経験し、希望していた住み慣れた地域での在宅生活が達成できた経過を通して、

三方 美登里
内田 美穂

抄録原稿の一部を紙面にて紹介します。

高齢化率の高い地域での老健施設の在り方

目的

当施設は公立八鹿病院（総合病院・333床）併設の入所定員90名、通所定員10名の老人保健施設で平成4年11月に開設された。兵庫県北部に位置

助をおこなった結果、三ヶ月の入所の中で周辺症状の著しい改善がみられ、在宅可能なようになった事例を通して、小橋 誠支援を拒む孤立した老夫婦の入所を経験し、希望していた、在宅生活が達成でき経過を通して、

入所時から問題行動の絶えなかつた痴呆性老人に対し援助をおこなつた結果、三ヶ月の入所の中ですぐ周辺症状の著しい改善がみられ、在宅可能になつた事例を通して、小橋 誠支援を拒む孤立した老夫婦の入所を経験し、希望していた、在宅生活が達成でき経過を通して、

第六回大会は、地域における保健・医療・福祉の連携をめざして、"をメインテーマに七月十三日～十四日、仙台市国際センターに於て開催され、当施設も、毎日の仕事を通して経験した結果を発表し参加しました。

785 利人 ◇ 利日

(結果)
(1)利用者数 延べ1170人(実
人数538人)でショートステイ
利用者は385人(32・9%)だっ
た。15日以上の利用者は延べ
785人(実数443人)
(2)年齢別

全体の平均年齢は 80・6 歳
 80 ~ 84 歳が 30 % と最も多く 80 歳以上が 61・5 % を占めている。
 (3) 入所経路と退所先 日以上の利用者で自宅からの入所者は 58・2 %、医療機関が 35・2 %、うち併設病院が 30・7 % だった。退所先について退所者全体では家庭が 73・7 %、15 日以上の利用者では家庭が 67・9 %、老人ホームが 16・7 %、医療機関が 15・3 % であった。家庭からの入所者の家庭復帰率は 78・6 % 併設病院からは 60・6 % だった。(4) 入所理由 15 日以上の家庭からの利用者は「介護者が不在」が 23・3 %、「リハビリ目的」が 17・2 % だった。併設病院からの利用者は「リハビリ目的」が 12・9 %、「老人ホームの待機」が 9・8 % だった。(5) 日常生活自立度および介護状況全体ではランク A 40・5 %、B 1 ~ 22・5 %、B 2 ~ 15・2 %、C 1 ~ 7・6 %、C 2 ~ 12・4 % となっている。ランク C の中には医療処置、全面介助など重度のケアを要す例が目立った。(6) 在所期間 全利用者平均在所日数は 47・8 日

高齢化率の高い地域での老健施設の在り方

援センター・訪問看護ステーションを持ち在宅ケアシステムの確立をめざしている。開設後2年5ヶ月間の退所者の状況を調査し高齢化地域における老健施設の在り方にについて検討した。

併設病院からは 60・6% だった。
家庭からの利用者は「介護者が不在」が 23・3%、「リハビリ目的」が 17・2% だった。
併設病院からの利用者は「リハビリ目的」が 12・9%、「老人ホームの待機」が 9・8% だった。
(5) 日常生活自立度および介護状況全体ではランク A 40・5% B₁—22・5% B₂—15

(ショートステイを除くと72・0日)だった。全利用者の割合は14日以内が33%、15~90日が40%、91~120日が24・4%、121~180日が1・9%、181日以上は0・8%だった。(7)世帯構成割合 独居が16・7%、二人暮らしが19・2%、二世代同居0・7%、三世代同居31・8%であった。(8)主介護者の割合 夫が6・1%、妻16・3%、娘が6・1%であつた。(9)全退所者のうち退所後デイケア利用者が18・2%、訪問看護ステーション利用者が11・5%だった。

(ショートステイを除くと72・0日)だった。全利用者の割合は14日以内が33%、15~90日が40%、91~120日が24・4%、121~180日が1・9%、181日以上は0・8%だった。(7)

世帯構成割合 独居が16・7%、二人暮らしが19・2%、二世代同居0・7%、三世代同居31・8%であった。(8)主介護者の割合 夫が6・1%、妻16・3%、娘が6・1%であつた。(9)全退所者のうち退所後デイケア利用者が18・2%、訪問看護ステーション利用者が11・5%だった。

綿密な連携を図り積極的に取り組む姿勢を堅持したい。

編集後記

綿密な連携を図り積極的に取り組む姿勢を堅持したい。



編集後記

三方 美登里
高齢化率の高い地域での老健の在り方
内田 美穂

(1) 利用者数 延べ170人（実
人数538人）でショートステイ
利用者は385人（32・9%）だっ
た。15日以上の利用者は延べ
785人（実数443人）

Cの中には医療処置、全面介助など重度のケアを要す例が目立った。(6)在所期間 全利用者平均在所日数は47・8日4%となっている。ランクB

から在宅生活を送っている
その中で「通過施設」「在宅
ケア支援施設」として役割を
はたしている。